No.25　　2022年11月18日(金)

進路通信

兵庫県立北須磨高等学校　進路指導部

[脊髄反射的学習と問題のパターン化]

前号では「走り高跳び的学習方法」について書きました。

学習内容の中には「脊髄反射的」と形容してもいいようなものがあります。英単語やイディオム，ある種の公式などがこれにあてはまります。このたぐいのものは，頭にしみ込んでいて反射的に解が得られないといけないので，パブロフの犬(?)のように勝手に手が動く必要があります。反射的に手がはたらくためには繰り返しが必要なので，意識せずに体が反応するようになるまで反復トレーニングを繰り返すスポーツにも似ています。ちなみに筆者は受験生のとき，英語の先生から「attribute, contribute, distributeはセットで覚えよ」と言われ，今だにセットになって頭に入っています。(何のことだったのかは忘れてしまいました。)

一方で暗記だけでは歯が立たない問題もあります。実力養成期のこの時期，3年次生はいろいろな先生の所に質問に行きます。わからない問題，難しいと感じる問題のどこがネックなのかは人によってまちまちですが，たいていの場合，難しい問題は複数の思考過程を経て解答にたどり着くようにできています。この複数の段階のどこかに理解不足があるので「わからない」となるのですから，そこがクリアできると他の種類の問題にも応用できるようになります。ところが，質問に来る人の中には，問題の入り口と出口の解答だけを見て「こういう場合はこうすればいいのですね」とパターン化しようとする人が少なくありません。「コ」の字の始点と終点をまっすぐ下へ結ぶようなもので，これは前回の「バーぎりぎりを通過する」より始末に悪いやり方です。せっかくのよい素材が短絡的にとらえられてしまい，問題の本質が失われるため，理解の深化に役立ちません。このような傾向にある人はよくよく注意して，じっくり思考を重ねるように心がけてください。思考段階の一つひとつは決して難しいものではないはずです。

[これからの学習]

①4大学の担当者が本校に説明に来てくれました。どこの大学も入試問題の難易度について「全問題の6割から7割は，全受験生の正答率が50%以上の問題である」といいます。誰もが解けないような難しい問題を解くより，みんなが正解できる問題で点を取り損なわないことで，合格に近づきます。応用力を養うこともちろんですが，「基礎・基本を確実にする」ことが重要なのは最後まで同じです。

②入試では合格ラインのボーダー±5点におおむね受験生の1割が集中，ボーダー±1点には70名もの人がひしめきます。日頃から丁寧な学習を心がけましょう。

③推薦入試では私立の早いところでは発表の時期を迎えています。国公立大学の推薦では出願の時期です。友達のようすを見て焦っていませんか。入試はひとそれぞれ。自分は自分のやり方・志望・出願の仕方をブレずに持ち続けましょう。不安なのは皆同じです。不安を解消する方法はただ一つ，「勉強すること」です。不安に悩むヒマがあったら1問でも余計に問題を解いてください。また，友人との語らいは，それ以上に不安解消に大きな役割を果たします。

毎日友人と学校で顔を合わせ，話し合えるのが現役生の強みです。学校を欠席すると，この大きなメリットが失われ，気分が内向していきます。不安に思っているときこそ，学校の集団の中で過ごすべきです。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization　Member of UNESCO Associated Schools